

「総合的な放課後対策推進のための調査研究」成果報告書

団体等名	特定非営利活動法人 子ども劇場笠岡センター
所在地	岡山県笠岡市笠岡 5909
実施場所	大井児童館

1. 事業の区分：

- 放課後の効果的な活動プログラム
- 地域特性等を踏まえた取組
- 地域の多様な主体の連携・協力

2. テーマ：地域の社会資源（人材）を活かした、放課後と休日の居場所づくり

- #### 3. 目的：多世代交流によって、子どもの豊かな心や人格の形成をサポートすることを目的とし、子どもたちが安心して過ごすことのできる居場所を提供する。放課後子ども教室と放課後児童クラブ参加児童の交流も含め、地域の社会資源（人材）を活かした多様なプログラムを通して日常的な交流の場、生活体験の場を提供する。

大井児童館のある大井地区状況：

実施した大井児童館のある大井地区大井ハイランドは、1,000戸の住宅を有する新興住宅地で、笠岡市の中で最も若い地区です。核家族が多く、また働いている母親も多い地区です。

大井児童館は放課後学童クラブを併設している児童館で、子どもたちは学校から帰り、親が迎えに来るまでの家となっています。

地域の中のもう一つの家として、子どもたちが安心して信頼できる関係をきずくことにより、心豊かで健やかに育まれる環境づくりをしていきます。

4. 事業の実施内容・方法

■放課後と休日の居場所「フリースペースキッズ広場」開設 計221回

高校生から60歳代までの地域のボランティアによる運営

実施時期：2007年8月～2008年2月

時間：月～金 15：00～17：00（2007年8月～10月）・15：30～17：30（10月～2008年2月）

：土・日・長期休暇 9：30～17：00（2007年8月～10月）10：00～17：30（10月～2008年2月）

ボランティアスタッフ：延べ 468名による運営

■カフェ「サロン・ド・児童館」開催 月1回 計6回開催

子どもたちが飲み物と手づくりのおやつで訪れた地域の人を方々をもてなす。

親子や高齢者が児童館を訪れるきっかけとする。

■「手芸教室」 5回開催

ビーズ・刺繍糸をつかったミサンガ・ストラップづくりなど、いろいろな手芸の体験。また、作品を定期的に行われる地域で「文化祭」に出品。学校からの出品以外は高齢者による参加が多い中、子どもたちの作品を通して交流をはかる。

■「キッズ料理教室」 4回開催

地域で活動する生活改善グループを講師に迎え、地産地消、食育という視点からも地元の素材を使った料理や季節感あふれる伝統料理の体験。料理教室を通して、命の大切さと食の自立の促進

- 「わたしたちの食卓～たべものはどこからやってくる？」
～楽しくゲームしながら食べ物のことを考えましょう～ 1回開催
「食」を通じて世界が見えるワークショップの開催。野菜・肉・魚の移動距離（マイルージ）やスーパーの食品の産地を知る。学ぶ世界地図などを使っての食育ゲーム体験。
- 「編物教室」 3回開催
マフラーなどの編物体験。
- 「科学実験教室」 2回開催
身近にあるものをつかい、科学の不思議体験と工作。科学が難しいものではなく、くらしのなかにある楽しい、おもしろいものとしての体験の提供。
- 「ニュースポーツ体験」 3回開催
体育指導委員を講師として迎え、手軽に楽しめるニュースポーツの体験。
- 「親子でたのしくリズムあそび」 5回開催
親子で音楽にあわせ、リズムによって身体を動かすリトミック体験。
- 「竹細工教室」 1回開催
竹笛をつくる竹細工体験。小刀などの安全な使い方も経験する。
- 「子どもふろしき市」 1回開催
ふろしき1枚を自分のお店とし、いらなくなった本やおもちゃの販売の実施。
お金や品物の管理やコミュニケーション能力などの生活体験の機会の提供。
売り上げの一部をユニセフに寄付することにより社会貢献も学ぶ。
- ゲゲゲのワークショップ「大好きな妖怪の絵を描こう」1回開催
地域在住の漫画家を講師に迎え、自分の好きな妖怪の絵を描く絵画教室。
- 「しめなわづくり」 1回開催
わらをつかい、正月のしめなわ飾りづくり体験。
- 「新聞づくりワークショップ」 1回開催
フィールドワークでおもしろいことを発見し、また地域の人へのインタビュー記事など、デジカメ・パソコンによる新聞紙面の作成。自分たちだけの地域の新聞づくり体験。
- 「ボクのワタシの動物園」1回開催
紙粘土でオリジナルの動物をつくり、動物園に見立てた模造紙に配置し、おりや柵などもつくり自分たちだけの動物園の作成。
- 「お針子体験」 1回開催
針と糸をつかってフェルトの小物入れ作成体験。

5. 事業の効果・成果

子どもの豊かな心や人格の形成をサポートするために高校生から高齢者まで、多世代のボランティアスタッフに協力していただきました。子どもたちの休日や放課後に「安心、安全な居場所」を提供するとともに、多世代の日常的な交流の場となりました。

地域の「井笠の味づくり研究会」・漫画家・ビーズ講師や地域のおばちゃんたちを講師に迎え、「料理教室」や「ものづくり」などさまざまな生活体験活動を提供することにより、子どもたちが小さな成功体験を積み重ねることができました。

また、カフェ「サロン・ド・児童館」を開設することで、親子や高齢者、老人施設など地域の人々が児童館を訪ねることにより、地域の絆を深めるきっかけとなり、同時に子どもたちも責任をもって役割をはたすことにより役立ち感や満足感を得る機会となりました。

子どもを通じて結びついたおとなたちがいい関係を築き、その関係が広がり、地域の中に新たな“気持ちのいいコミュニティ”を構築することができました。その真ん中で子どもたちがすくすくと大きくなってほしいと願っています。

この事業に協力していただきました講師の方々をはじめ、多くの地域の皆さまに心より感謝いたします。

6. 事業の経過

■「フリースペースキッズ広場」放課後と休日の居場所を開設 計221回

実施時期：2007年8月～2008年2月

時間：月～金 15：00～17：00（2007年8月～10月）・15：30～17：30（10月～2008年2月）

：土・日・長期休暇 10：00～17：00（2007年8月～10月）・10：00～17：30（10月～2008年2月）

ボランティアスタッフ：延べ 468名による運営

子どもたちが休日や放課後、地域の中で安心して安全に過ごすことのできる居場所が必要です。学童保育を併設している当児童館には、子どもたちは学校より「ただいま」と帰り、もう一つの家となっています。この事業の実施にあたり、延べ468名もの多くのボランティアスタッフが子どもたちと時間を共有してくれました。高校生から大学生、地域住民など、まさに子どもの成長を見守ることのできる、地域に密着した事業となりました。

「学校でもない、家庭でもない、第三の居場所」として地域の人たちと新たな人間関係を築いていける場所。子どもたちには、自分たちだけの秘密の場所をふくめ、多様な居場所が必要です。今後も行政・学校・市民が連携して実施する「気持ちよく受け入れてくれる自分だけの居場所」が地域の中に存続することを願っています。



■カフェ「サロン・ド・児童館」

開催日	キッズスタッフ (名)	参加者 (名)	メニュー
2007年 9月2日(日)	7	29	ずんだもち
10月27日(土)	4	22	わらびもち
11月25日(日)	7	24	芋もち
12月22日(土)	6	18	ドーナツ
2008年 1月27日(日)	6	11	芋ようかん
2月24日(日)	8	42	クッキー



児童館は、子どもと親子が行くところと思われがちな場所ですが、高齢者から若者たちなど、多くの人に気軽に足を運んでもらうきっかけづくりになるように、毎月1回カフェ「サロン・ド・児童館」を実施しました。

この事業は地域の方にお茶を飲みにきていただき、子どもたちがスタッフになって、おもてなしするという企画です。子どもたちはおそろいのエプロンとバンダナを身につけて、クッキーやドーナツなどのおかしをつくり、コーヒー・紅茶などを用意し、テーブルのセッティングやメニュー表も作成し、開店します。



日常生活では、子どもたちは「自分」のことで精一杯で、なかなか相手のことを考えて行動する機会は少ないですが、この体験を通して相手のことを思い、動くことで人から感謝される喜びを感じ「自己肯定感」は高くなっていったように思います。

この体験後、スタッフをした子どもの一人が、以前になかった友だちや小さい子どもに親切に接している姿を目にしました。この企画が子どもたちにとって、すてきな生活体験の場だったということを実感しました。



子どもたちは、仕事の分担も「ぼくらは、飲み物やお菓子の用意をする」「じゃあ、わたしたちはお客様の係りをするわ」と自分たちで役割を決め、たくさんのお客さまにも笑顔で接しています。

近くにある老人施設からもお年寄りが遊びに来てくださり、これからも児童館が地域の居場所になってほしいと願っています。



■手芸教室

開催日	内容	講師	参加者(名)
2007年10月7日(日)	ビーズでつくるブレスレット	酒井有佳氏	18
11月4日(土)	フェルトボールでストラップ	酒井有佳氏	12
12月8日(土)	指編みでマフラーをつくろう	水田満喜子氏	12
12月2日(日)	お花モチーフのゆびわ	酒井有佳氏	13
2008年1月27日(日)	棒針をつかってマフラーを編もう(1)	水田満喜子氏	9
2月2日(日)	棒針をつかってマフラーを編もう(2)	水田満喜子氏	9
2月3日(日)	ビーズでつくるいちごのストラップ	酒井有佳氏	13
2月23日(土)	お針子体験~フェルトをつかって小物入れをつくろう~	橋本満子氏	10



ビーズ細工や編み物、またお針子体験など手先をつかっての小物づくりに挑戦しました。慣れない細かい作業でしたが、みんな集中して一生懸命につくっていました。途中でわからなくなった時も、講師にたすけてもらいながら最後まで頑張っていて、みんなやり遂げることができました。完成した作品にとっても満足した様子で、お母さんにプレゼントする子どももいました。とくにビーズや編み物は、時間はかかりましたが、こつこつと続けることによって集中力や根気のよさを養うことができたように思います。ものをつくる楽しさや達成感も実感できたのではないかと思います。

糸の通し方、玉どめの仕方などの基本を習いました。途中で糸が針から抜けたり、玉どめがほどけたりしましたが、あきらめず、根気よくがんばり、将来に役立つ生活体験になりました。





■キッズ料理教室

開催日	講師	メニュー
2007年10月14日(日)	押撫ブドウ研究会	黒豆栗ごはん・豚汁・小魚ミンチの磯辺焼き
11月11日(日)	ひじり会	大豆三色ドライカレー・たかきび粉のだんご汁季節の野菜サラダ
12月9日(日)	椿生活交流グループ	椿寿し・吸い物・おからハンバーグ
2008年1月13日(日)	鴨方町生活交流グループ	炊きおこわ・はまぐりの潮汁・筑前煮

※講師：井笠農業普及指導センター「井笠の味づくり研究会」内

子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身につけていくためには、何より「食」が重要であると、2005年食育基本法が施行されました。私たちは食の自立ができて、はじめて自立といえるのではないかと考えています。子どもたちに、地域に伝わる豊かな食文化の伝承や、「食生活」を大切に考えてもらいたいとを行ないま



した。「キッズ料理教室」定員10名で、A・Bグループに分けて2回ずつ行いました。

講師に備中県民局農林水産事業部の井笠農業普及指導センター「井笠の味づくり研究会」のメンバーの方に来ていただきました。「井笠の味づくり研究会」は笠岡市、井原市、浅口市で活動している、JA・漁協・生活交流グループの14の団体で構成している、食の研究会です。

子どもたちは地域の豊富な食材を利用した伝統食などをおしえていただきました。豆やきび粉を使ったヘルシーで昔ながらの献立や、子どもたちが大好きなドライカレーには、じゃがいものかわりに黒豆、大豆、黒豆枝豆を使い旨みをひきたたせていました。

古くから伝わる「椿寿し」は黒大豆を入れたすし飯を花型で抜き、その上に人参とゆでたまごで飾りつけ、食べるのがもったいないくらいきれいでした。

講師は子どもにもできるかなと心配していましたが、子どもたちは自分のできそうな作業にどんどん挑戦し、楽しんで調理をしていました。



この体験を通して友だちと協力することや、季節の行事や地域の食材を知ることができたように思います。



■ニュースポーツ体験

開催日	種目	講師(名)	参加者(名)
2007年12月8日(日)	グランドゴルフ	3名	15
2008年1月12日(土)	室内ペタンク	3名	16
2月9日(日)	バグジー	3名	13

※講師：笠岡市派遣体育指導委員

ニュースポーツは、技術やルールが比較的簡単で、だれでも、どこでも、いつでも容易に楽しめることを目的として、新しく考案されたスポーツで、その数は数百種目以上あるといわれています。今回、笠岡市派遣体育指導委員に来ていただきました。

グランドゴルフやペタンクはニュースポーツのなかでも、ルールも簡単で、体力もあまり必要とせず、幼児からお年寄り、障害のある人もプレーでき、始めてでも充分に楽しめるスポーツです。



コツをおしえてもらいながら、だんだん上達してくると、「ホールインワンを狙う!」と集中力も高まり、ボールが入ると歓声をあげて喜び、外れると思いきり悔しがれる素直な表情、子どもどうして声を掛け合い励まし合う姿がとても印象的でした。試合が始まると、一投一投集中して「あ～外れたあ～!」とくやしがる声や、「いけえ～!」と応援する声、「ヤッター!」とハイタッチで喜びをわかちあい、子どもたちの歓声でいっぱいになりました。最後に講師より手づくりの勲章を首にかけてもらい、子どもたちはとても満足そうでした。

今まで体験したことのないニュースポーツにふれることで、ルールを覚え、体を動かすことの面白さを実感し、仲間との交流も深めました。



■「親子でたのしくリズムあそび」(リトミック)

開催日	参加者(名)
2007年10月15日(月)	22
10月11日(木)	24
12月13日(土)	16
2008年1月10日(土)	19
2月14日(木)	23

※講師：大熊晴美氏(リトミック講師)



リズムあそびは、音楽にあわせて身体を動かすことにより、リズム感と身体機能を高め、親子のふれあいを楽しむことを目的としています。タオルをつかったストレッチ体操、大玉ころがしやボール遊びなど、音楽に合わせて体を動かすリトミックを楽しみました。

リズムあそびのメニューはたくさんあり、挨拶の歌からはじまり、手拍子に合わせて立ったり座ったり、曲に合わせて体をゆらしたり、走ったり、ジャンプ、次々変わる曲を聞いて、

曲に合わせて身体を動かします。手遊び「キャベツはキャッキャッキャ」「おにぎりにんにん」は親子で向かいあってしました。動物に変身する場面では動物になりきり、動きを自分たちで工夫しました。道に見立てた2本のロープの間を通ったり、綱渡りのように1本のロープの上を歩いたり、ロープでできた輪を順番に飛んだり跳んだりします。

日常身体を動かすことの少ない保護者の方々にも楽しんでいただきました。



■「子どもふろしき市」

日 時：11月25日(日) 13:30~15:30

参加者：197名

出 店：28店舗

昨年に引き続き第2回目となったふろしき市です。ふろしき1枚分の1m四方を自分のお店として、読んでしまった本やいらなくなったおもちゃや服などを、自分で値段をつけて売るフリーマーケットです。約束事として、「値段は500円まで、大人の服やカードは売らない」など決めています。看板も自分で作り、値段をつけ、商品の並べ方など工夫してお店のアピールをします。

「いらっしゃいませ」、「ありがとうございました」という挨拶から、お客さまへの対応など、「コミュニケーション能力」や「自主性」を養い、ものを大切にする心をつくる、今の子どもたちにとって大切な生活体験の提供です。

また売上金の一部をユニセフに寄付をしてもらうことにより、社会貢献の場にもなっています。



■ゲゲゲのワークショップ「大すきな妖怪の絵をかこう」

日 時：12月2日(日) 13:30~15:30

参加者：小学生 33名

講 師：南 一平氏(漫画家)

講師から「妖怪は怖いだけのものではなく、身の回りにもたくさん妖怪がいるよ。たのしい妖怪をかいてみよう」とお話を聞いた後、みんないっせいに絵にとりかかりました。

妖怪辞典を見たり、どんなのにしよう、これも妖怪になるかなと自分の頭に浮かんだ妖怪を想像しながら描いていました。

できあがった絵は、笠岡名産のいちじく妖怪、自分が妖怪になったらこんな感じ。大好きなソフトクリーム妖怪など個性あふれるものになりました。子どもたちの豊かな想像力に改めて驚きました。



■「しめなわづくり」

日 時：12月9日(日) 13:30~15:30

参加者：小学生 9名 大人 2名 計 11名

講 師：渡邊公子氏

日本の伝統的なお正月を身近に感じてもらいたいと、「しめなわづくり」をしました。

低学年は、しめなわの形を整えて、梅や松、扇など思い思いの飾りをつけました。高学年の中には、自分でわらを編んでリースのしめなわをつくる子どももいました。飾り付けもやっこ凧から釣り糸を垂らして、鯛を釣っているものなど、大人では決して思いもつかないような、自由な発想で飾り付けを楽しみました。はじめての作業に悪戦苦闘しながらも、最後にはすばらしいしめなわができました。



■科学実験教室

年月日	内容	参加（名）
2007年12月22日（土）	空気砲で遊ぼう	12
2008年1月26日（土）	かがみの不思議実験	8

※講師：佐藤琢夫氏（小学校教諭）

科学離れが進んでいるといわれる今の子どもたちに、生活のある身近な科学現象をとりあげ、ふしぎ体験を通じて、驚きや興味を引き出すことで科学する心の芽を育てていきたいと思っています。

今回小学校の先生に来ていただき空気やかがみのふしぎな世界を体験しました。「空気砲」では、圧縮された空気の力で5本のろうそくを消す実験や、鏡の中に映る永遠と続く像の姿に魅了されていたようです。鏡の数を2枚、3枚と増やしていくに従い、見える像が変化していく様子に興味津々でした。また万華鏡づくりにも挑戦しました。

科学が決してむずかしいものではなく、日常の生活の中にあるものだということが伝わり関心をもってもらいたいと願っています。



■竹細工教室「竹で笛をつくってみよう！」

日 時：12月26日(水) 13:00~15:00

参加者：小学生13名

講 師：谷水三治氏

地域の竹細工名人にきていただき、竹で鳥の形をした笛に挑戦しました。のこぎりやなたをつかって竹を切り、小刀、ねずみ錐なども使いながら形をととのえていきます。最初はこわごわとしていましたが、慣れてくると楽しそうに道具を使っていました。

子どもたちは出来上がった竹笛を吹き、さまざまな竹笛の音が児童館に響きました。日ごろ使わない道具の工作は、難しいこともありましたが、時間をかけてじっくり取り組むことにより、達成感を実感することができたのではないのでしょうか。



■「私たちの食卓

～たべものはどこからやってくる？楽しくゲームをしながら食物のことを考えましょう～

日時：12月1日(土) 10:00~11:00

参加者：小学生7名

講師：花咲真紀氏

「食育について」というテーマで、「野菜、果物の季節わけゲーム」などを行いました。フェルトで作った野菜や果物を、「春」、「夏」、「秋」、「冬」と書いてある画用紙の上においていきます。子どもたちは「アスパラは夏かなあ、冬かなあ」などを相談しながらわけていました。お店に行けば何でもある現代、子どもたちにとって旬がわからなくなっています。



また、スーパーの広告から切り抜いた食品の写真を、産地別に世界地図の上に並べていくというゲームでは、「チリはどこー?」「カナダは」などと自分たちで場所を探し、そのたべものがどこの国から来たのかを確認していました。たくさんの食べ物が、日本から遠い国から届いているということに気づき、驚くとともに、「エビはこの辺が多いなあ」「バナナはここばかりだよ。」となぜ?という質問も出てきました。

私たちの命を生かしてくれる食べものに関心をもってもらいたいと思っています。